



2024年11月22日

各位

会社名 サイバートラスト株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司
(コード番号：4498 東証グロース)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也
(TEL 03-6234-3800)

2025年3月期第2四半期決算に関する質疑応答集2

当社の2025年3月第2四半期決算に関して、当社で想定していました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

Q1 CentOS7 延長サポートが本格収益化し大幅増収とありますが、このトレンドはいつまで続きますか？

A1 CentOS7 のコミュニティサポート終了に伴い、期初想定を上回る受注額を獲得し高成長牽引サービスである Linux サポートのリカーリング売上のベースラインは一段高いレベルとなり大幅増収となりました。

しかしながら、CentOS のコミュニティがサポートするバージョンは CentOS7 が EOL (サポート終了) を迎えた時点で終了し他に存在しないため、大幅な受注増加は、今後は見込んでおりません。

一方で、CentOS7 延長サポートの利用は、CentOS から他の OS へ乗り換えるまで当面の間、徐々に減少しつつ継続する見込みですが、CentOS からの次期移行先 OS 候補として有力視される国際標準 OS の AlmaLinux への移行を提案すること、CentOS からの乗り換え以外にも高品質長期サポート、脆弱性管理、セキュリティ等の付加価値をつけた AlmaLinux の新サービスを提供することで Linux サポートのさらなる成長を目指しております。

Q2 第2四半期の iTrust のトランザクション数が第1四半期より減少している要因は何でしょうか？

A2 iTrust の KPI である有償トランザクション数は、「季節性要因」や「一過性要因」により影響を受けることがあります。この第2四半期については、「季節性要因」と「一過性要因」の両方の影響が重なったことにより前四半期比で減少しております。もっとも、この先は複数の新規案件のスタートに加え、第4四半期に向けて季節性要因がプラスに働くため、右肩上がりの傾向になる見込みです。

なお、「季節性要因」と「一過性要因」の例として、新年度に向けて金融機関の口座開設数や金融サービスの登録数が増加するに伴い iTrust (本人確認) のトランザクションが増加する傾向となり、また同様に年度末に向けて企業間の契約数が増加することに伴い iTrust (電子署名) のトランザクションが増加する傾向となる「季節性要因」と、金融機関などが特定期間に口座開設や登録のキャンペーンを実施した場合等は、その特定期間内のみトランザクション数が増加し、その後トランザクション数は減少傾向となる「一過性要因」があります。これらの傾向は「季節性要因」と「一過性要因」が重なり数か月前後するなど、特定の四半期を前四半期比でみた際にトランザクション数が増

減いたします。

これらのことから、有償トランザクション数の比較は、前年同期比または前年度比で比較することで、その傾向を確認いただけます。

Q3 サービス構成変更に伴う組織変更などありますか？それにかかるコストが下期に発生するなどあれば教えてください。

A3 2024年10月1日付でLinux/OSSサービスの部門とIoTサービスの部門を統合する組織変更をしております。組織変更に伴うコスト増は見込んでおりません。むしろ、リソースの効率的活用につながるものと考えております。

Q4 上期の営業利益率は16.3%ですが、通期業績予想を踏まえたと下期は19.6%と営業利益率が上がる見込みになっています。その理由を教えてください。

A4 リカーリングサービスは四半期毎に積み重なり、iTrustなど第4四半期に集中する傾向もあります。そのため、例年上期の営業利益率より下期の営業利益率が高い傾向があり、今期についても同様に下期がより営業利益率が高まる見込みです。

Q5 プラットフォームサービスのうち旧IoTサービスのプロフェッショナルサービスの上期の状況について教えてください。

A5 セキュリティコンサルは国際安全基準や法規制の動向に伴い前年同期比増と堅調に推移しました。受託開発は子会社のリネオソリューション社が好調に推移しました。その結果、プロフェッショナルサービス全体では上期は前年同期比11.2%増収となりました。

* iTrust®は当社の登録商標です。

* 登録商標Linux®は、Linus Torvaldsから排他的ライセンスを受けているThe Linux Foundationからサブライセンスを受けて使用しています。

* その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上